

# 多門院地区山口神社祭礼調査記録

迎田 幸志郎

## 1. 準備

2015年10月3日（土）11時00分、多門院地区公民館に到着。8時より準備を始めていたようで、到着時にはほとんど終了していた。公民館での準備内容は、棒振り等出し物・ササラ引き・すげ傘・山車（台車）の飾りつけ、テント張り、衣装・子供神輿の準備など。山口神社での準備は、杓子舞着替え用の更衣室設置など。

### ○山車（囃子）の飾りつけ

山車は、大太鼓の山車と、鞨鼓と小太鼓を載せた山車の2つ。山車の台車はリヤカーで、自走して移動できる。大太鼓の山車は、屋根に常緑を表す杉の葉を飾り、太鼓・御酒を載せ、当日は「山口大明神」、「天藏大明神」の2本の幟を立てる。鞨鼓・小太鼓の山車は、リヤカーの上に畳を敷き、簾を土台とし小太鼓・神棚を載せる。周囲を紅白の幕で囲い、四方に竹を立て、縄をかける。提灯・紙の花・モール等で飾り付ける。演奏時には四人乗り込む。飾りつけは、女性が担当して、取り付け等は男性が担当した。



写真1 大太鼓 山車準備中



写真2 大太鼓 山車当日練習中



写真3 鞍鼓・小太鼓 山車 前面

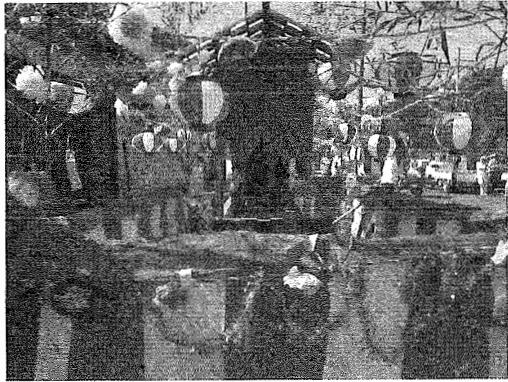


写真4 鞍鼓・小太鼓 山車 背面

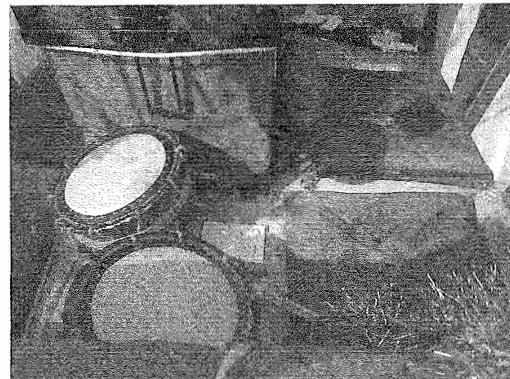


写真5 鞍鼓・小太鼓 山車 中の様子

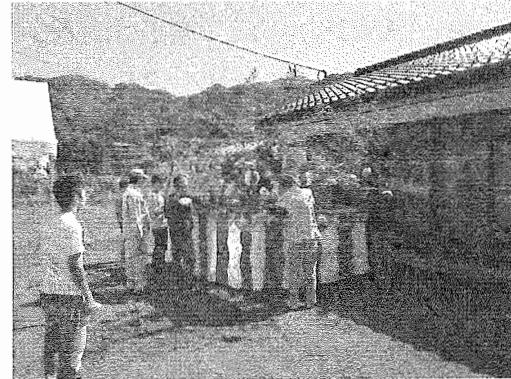


写真6 鞍鼓・小太鼓 山車

#### ○振り物の道具の飾りつけ

さら引きに用いる木は椿を使う。紙の花、金の色紙を短冊状にしたもので飾りつけ、持ち手側には溝がつけてある。露払いに使用する棒の飾りつけは色紙を使い作製。祇園囃子を行う人が被る笠にも紙の花で飾り付ける。



写真7 ささら引き



写真8 笠

#### ○鉾・幟飾りつけについて

鉾の上端の飾りは、季節の植物であるすすき・萩に加え杉の葉や竹を飾り付ける。また、山口神社までの道中及び、山口神社に立てる幟の上部にも同様の飾りをつける。鉾上部の傘には帶をつけ、傘の内側には白米を1升袋に詰め下げる。

幟は祭礼の10日から1週間前に各小字毎に立て、旗竿には杉や檜を用いるが、最近ではアルミのポールで代用するところもある。



写真9 鉾

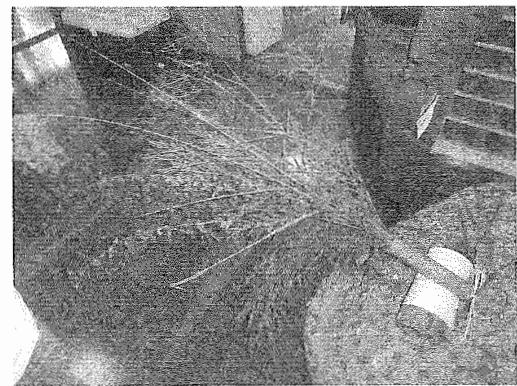


写真10 鉾 上端の飾り

## 2. 多門院公民館にて初振り

2015年10月4日（日）9時15分より10時20分まで多門院公民館の駐車場にて、振り物・出し物を行う。以前は、各小字で振り物を行い山口神社で奉納を行っていたが、現在では多門院公民館での1回のみとなっている。初振りは、「祇園囃子」「露払い」「小太刀」「棒振り」「獅子舞」の順に行われ、「ササラ引き」は各振り物の間に行われた。杓子舞以外は山口神社で行うものと同様のものが披露された。振り物・出し物はビニールシートの上に敷いた莫産の上で行われ、祭礼の参加者にはビールや飲み物が配られていた。

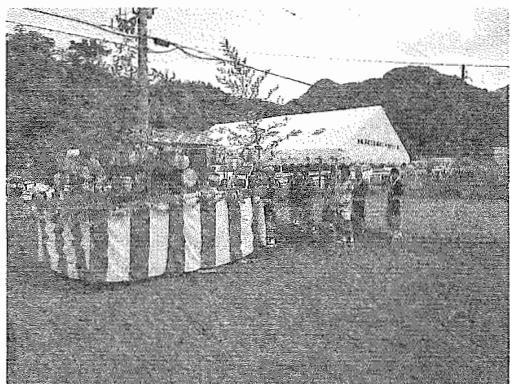


写真 15 祇園囃子

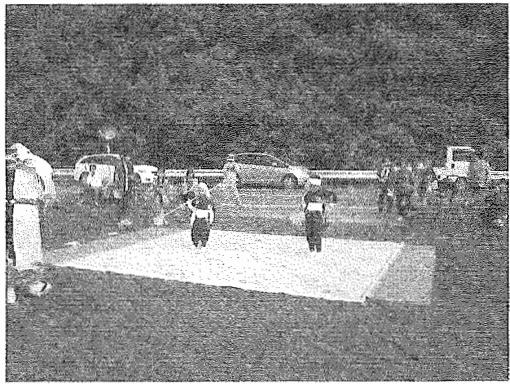


写真 16 露払い

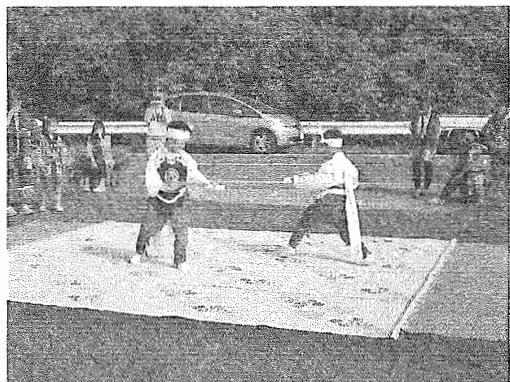


写真 17 小太刀



写真 18 棒振り

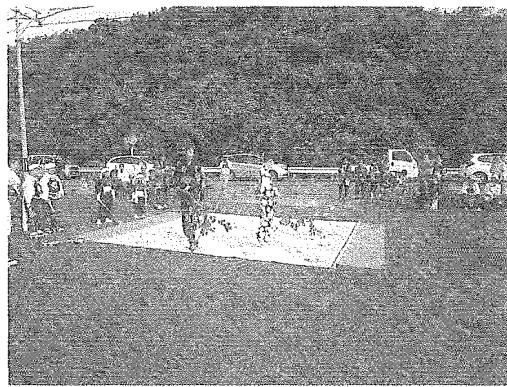


写真 19 ササラ引き



写真 20 獅子舞

獅子舞には基本動作と呼ばれる「舞」の説明があり、20分程かかった。獅子頭は10キロ近くあるため、初振りと山口神社奉納では頭側と尾側の役が入れ替わって行う。獅子舞は、決まった動作を各方向に行なっていた。尾側の人は、ひょっとこの面を顔側面につける。また、獅子頭の耳は可動し、内部には鈴が取り付けてある。基本動作は、伊勢の太神楽を基本にしているとの言い伝えがある。

#### 基本動作

まず、最初に「舞」の場を清めるために「ササラ引き」が出て、「場」を清めます。続いて、獅子が出て「舞」が始まりますが、まず御幣で、そして刀で「悪」を追い払います。

それから、獅子は寝ますが、頭の上の雲が気になり、睨みつけます。

獅子は腹が減り大好物の「カニ」を食べだしますが、正面の神様が気になり、食べようかどうしようか迷っています。結局食べますが、すぐに吐き出します。

次に「ノミ」を取り始めますが、やがてその「ノミ」も居なくなり、気持ちよくなつて笑い出します。獅子は、大きく振り出しますが、尻尾が思うように動きません。腹が立つて、尻尾を持っている「おやじ」に噛み付こうとしますが、やがて神様の前だと気が付いておとなしくなります。



写真 21 獅子頭とひよっこ面

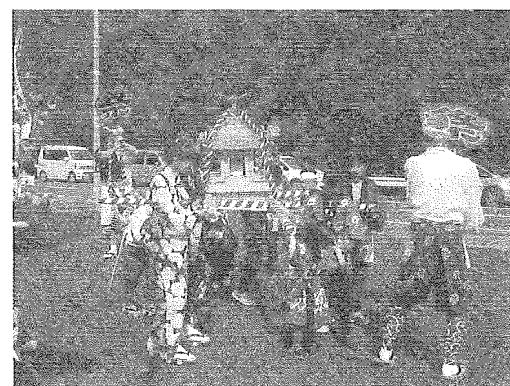


写真 22 子供神輿 練習

初振りの後、多門院公民館にて昼食。その間に聞き取りも行う。櫻は由来は不明であるが、「石結び」という結び方をする。

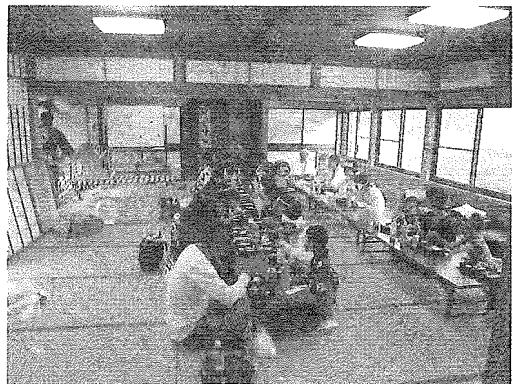


写真 23 昼食の様子



写真 24 石結び

### 3. 巡行

11時50分より山口神社へ向けて巡行を開始する。正装をした役員、鉾、演者、山車（鞨鼓・小太鼓）祇園囃子の奏者・山車（大太鼓）の順で行列を組む。道中、山の神・若宮神社・笠神様の前で止まり、「エイエイオー」と掛け声を掛け、爆竹を鳴らし、法螺貝を吹いていた。また、時間調節の為に山口神社前の道端で小休止した。爆竹は昔行われていた空砲の名残だということだった。（地図 1）

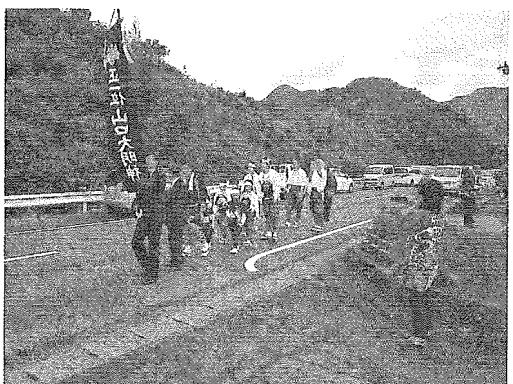


写真 25 11:50 多門院公民館出発



写真 26 12:03 山の神様の前

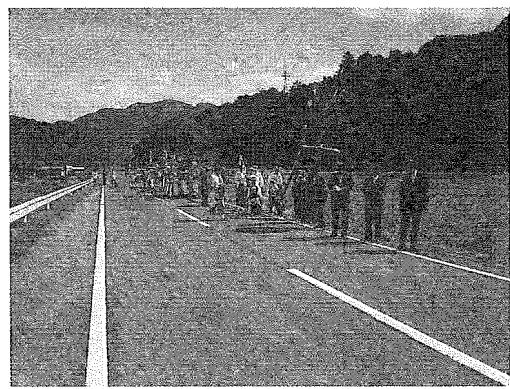


写真 27 12:14 若宮神社前



写真 28 12:30 笠神様前

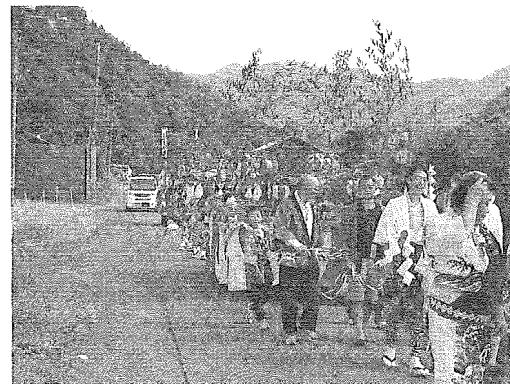


写真 29 行列の様子



写真 30 12:45 山口神社前で小休止

#### 4、宮入・奉納

13時00分頃より宮入。堂奥地区と多門院地区の宮総代と役員、神主が参道に並ぶ。

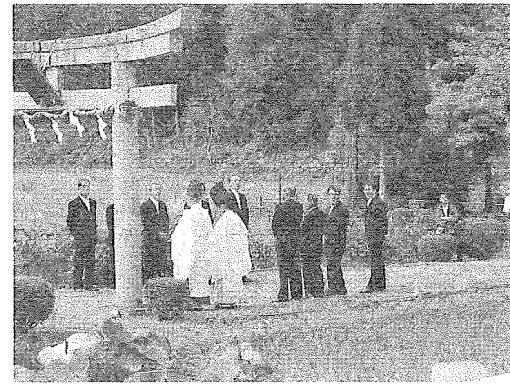


写真 31 山口神社参道



写真 32 12:58 宮入

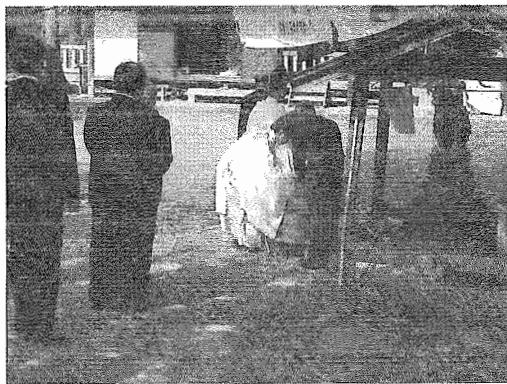


写真 33 手水

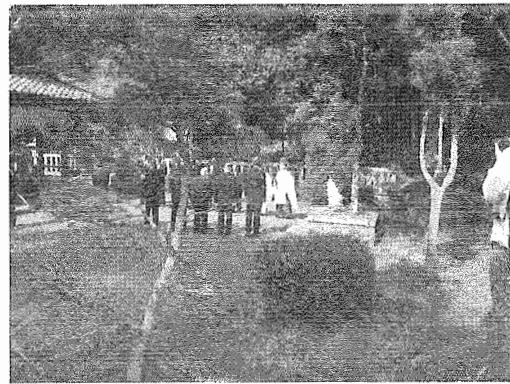


写真 34 神木（柳）の前でお祓い、祝詞



写真 35 演者は舞台前に整列



写真 36 宮総代ら玉串奉納

儀式が終わると、演者が舞台に上がり 13 時 30 分頃より、新谷一幸氏司会のもと奉納が行われる。祇園囃子、露払い、小太刀、棒振り、獅子舞、杓子舞、子供神輿の順に行われ、各振り物の合間にはササラ引きが行われた。また、各演目が終わる毎に、「おひねり」と言われる小銭をティッシュペーパーでくるんだものを観客が舞台に投げていた。



写真 37 祇園囃子



写真 38 観客の様子



写真 39 露払いと観客



写真 40 露払い 打ち合う場面



写真 41 露払い終了 床におひねり



写真 42 舞台を一周する ササラ引き

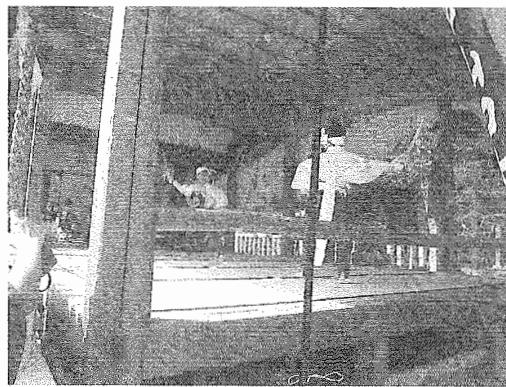


写真 43 小太刀の演技



写真 44 小太刀

まだ小さい演者（露払い、小太刀の演者）には演技終了後にメダルを授与していた。

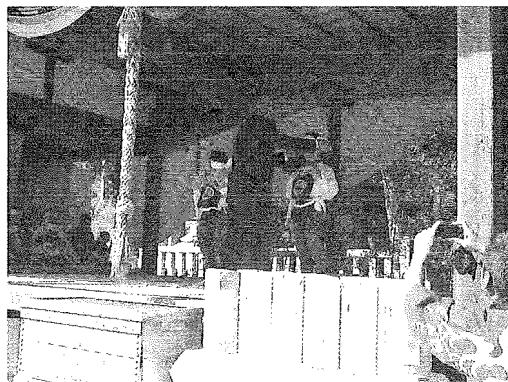


写真 45 小太刀 メダル授与

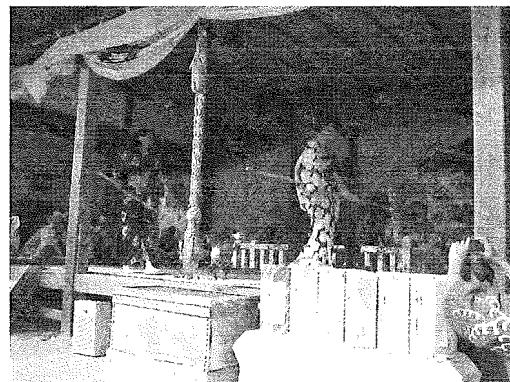


写真 46 ササラ引き

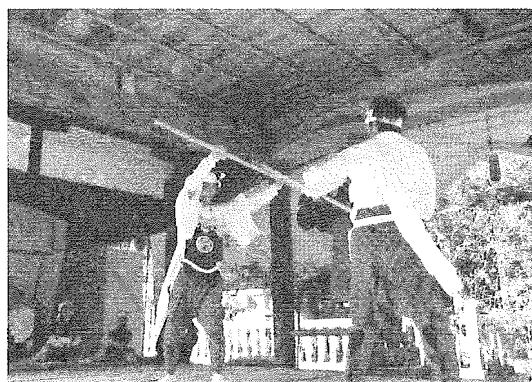


写真 47 棒振り 打ち合う場面  
(多門院地区提供)

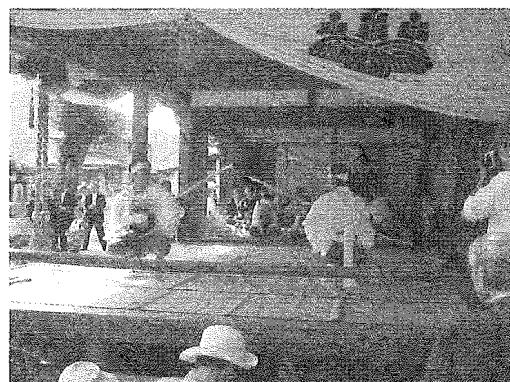


写真 48 棒振り

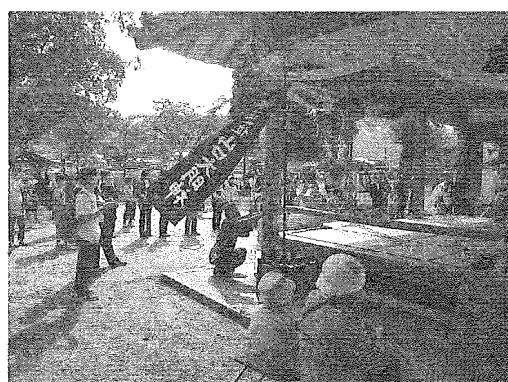


写真 49 棒振り 観客の様子

獅子舞は、基本動作の説明であるように決まった動作を、本殿の方向を始めにして左回りに四面同じ動作をする。また、必ずしも四面するわけではなく、三面しか行わない動作もある。ここでは本殿の方向を正面として、演者が座る方を左、逆を右、本殿に背を向ける方向を後ろと表記する。



写真 50 獅子舞、御幣・鈴（向き正面）

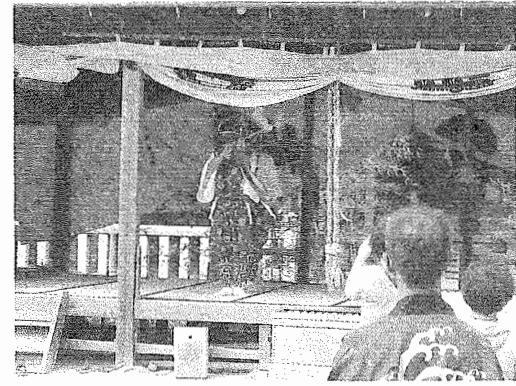


写真 51 獅子舞 御幣（向き後ろ）



写真 52 獅子舞 噛みつく（向き正面）

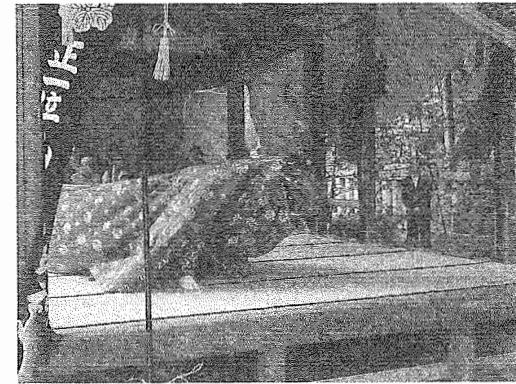


写真 53 獅子舞（向き右）

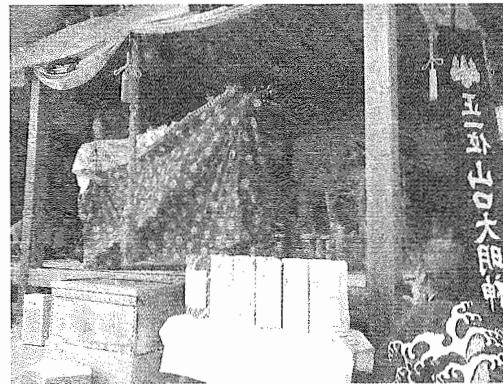


写真 54 獅子舞 腹をなびかせる（向き右）

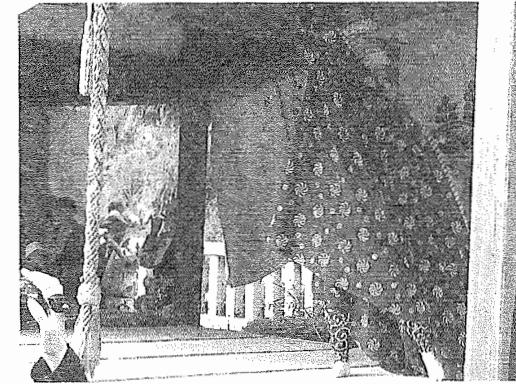


写真 55 獅子舞 伸び上がる（向き後ろ）

杓子舞は山口神社でのみ行われ、面をかぶっているため誰が演じているかはわからない。そのため、昔は誰が演じているのか探し当てるのも楽しみの一つであったという。杓子舞の着替えだけは山口神社裏の仮設更衣室にて行う。



写真 56 ソクシテ舞 入場



写真 57 ソクシテ舞 舞台上を回る

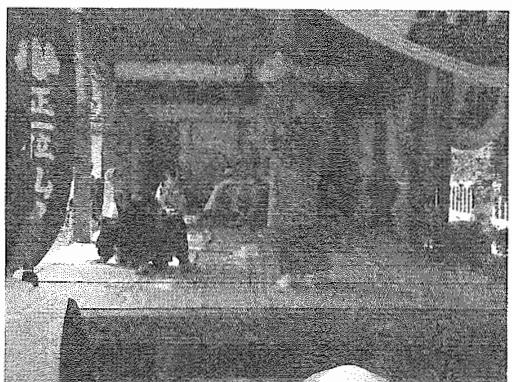


写真 58 ソクシテ舞 掛け合い

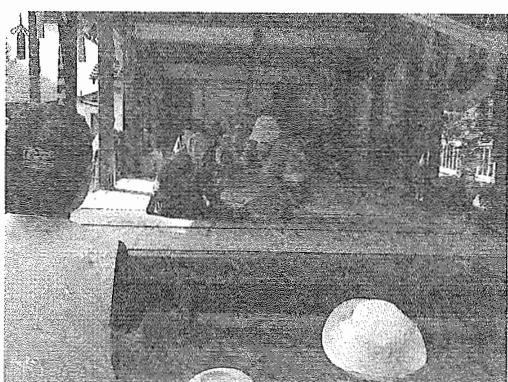


写真 59 ソクシテ舞 お酌

最後に子供神輿を行う。掛け声をかけながら境内を一周する。この時賽銭箱にお賽錢を入れる。

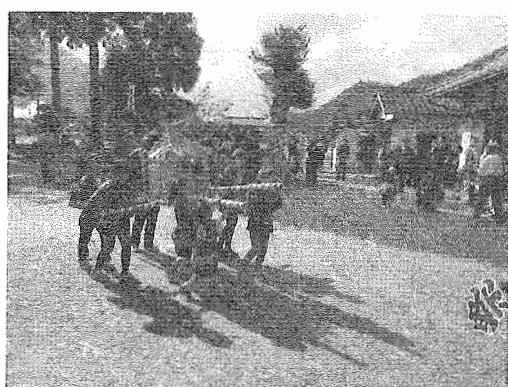


写真 60 子供御輿



写真 61 子供御輿 賽銭箱を持つ少女

### ○囃子について

宮入の際の囃子は、祇園囃子から三番叟を演奏する。振り物、出し物の囃子は、舞台裏手で演奏していた。獅子舞の囃子は、基本動作毎に違う曲を演奏する。「祇園囃子」、「三番叟」等、演奏される囃子の楽譜は多門院地区にはないので、口伝、音声記録等で引き継いでいる。また、手製の楽譜が作成されていた。

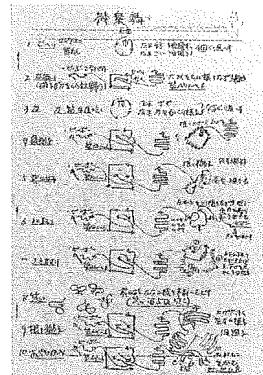


写真 62 神樂舞楽譜

(新谷一幸氏提供)

### ○時間と演目

13:40～13:43	祇園囃子演奏	13:44～13:46	露払い
13:47～13:49	小太刀	13:50～13:54	棒振り
13:56～14:18	獅子舞	14:20～14:28	杓子舞
14:30～14:32	子供御輿		

祭礼終了後、山口神社の舞台にて堂奥、多門院両地区の宮総代、役員、神主らが直会を行う。

### ○山口神社奉納に関して追記

- ・山口神社における祭礼の観客数は、40人程度（演者、関係者除く）。
- ・当日は祭礼中に一時小雨が降るも、すぐに止み影響はなかった。
- ・祭礼を行う時期に、地区の子供が通う幼稚園の運動会と日程が重なることがあり、参加者が減る。また地区の子供は同じ幼稚園・保育園に通っていないので調整に苦労するということ。

### ○参考 今回撮影できなかった山車の準備中の写真（2007年、多門院地区提供）

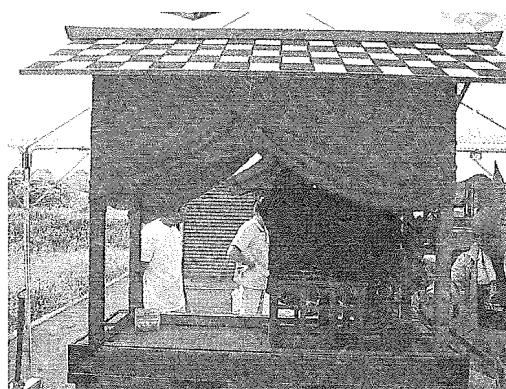


写真 63 山車 準備中（右面）

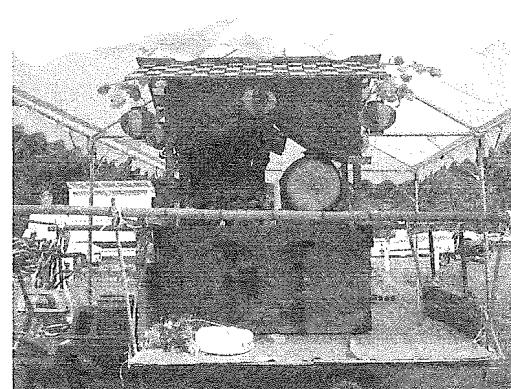


写真 64 山車 準備中（左面）

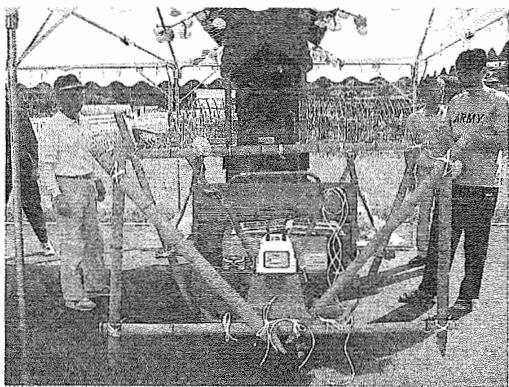


写真 65 山車 準備中（正面）

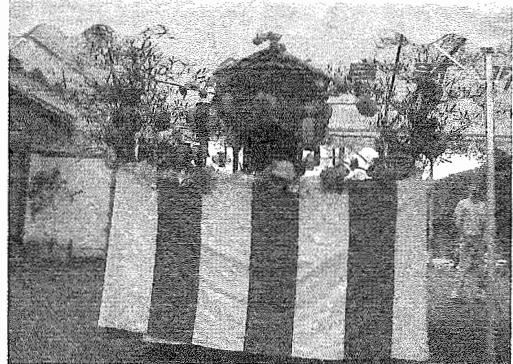
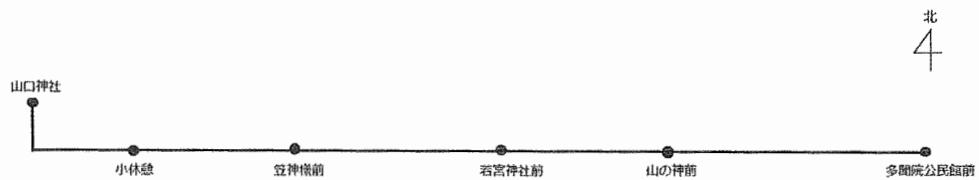


写真 66 山車 飾りつけ完了



地図 1 多門院祭礼略地図

#### ○調査記録

本調査は、2015年10月3・4日の山口神社祭礼の現地調査、7月19日の多門院公民館における聞き取り調査、また新谷一幸氏の「多門院地区歴史探訪」を参考にまとめている。

#### 話者（2015年7月現在）

早水 孝夫（昭和11年生） 多門院、興禪寺元総代  
榎 与一（昭和11年生） 山口神社総代  
一瀬 泰男（昭和18年生） 山口神社総代  
上野 文男（昭和30年生） 多門院区長  
新谷 一幸（昭和22年生） 多門院長生会会長、多門院伝統芸能保存同好会会長、多門院の将来を考える会会长

調査者 迎田幸志郎（京都府立大学文学部歴史学科3回生）、水野拓也（同2回生）

写真の注記のないものはすべて筆者撮影

1983年多門院地区奉納の写真（新谷一幸氏提供）  
(写真 71・72 が 2015 年に振れなかった「振り物」)



写真 67 練習風景



写真 68 小太刀

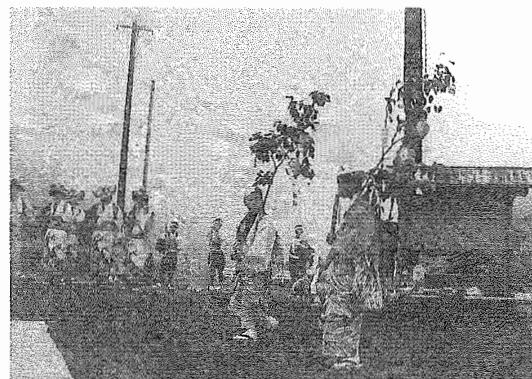


写真 69 ささら引き



写真 70 獅子舞

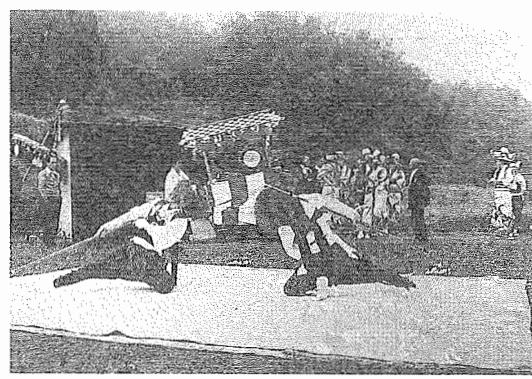


写真 71 大薙刀

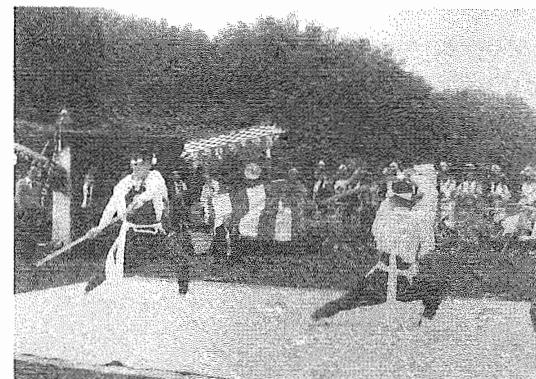


写真 72 関棒

表紙の解説

	1 2 3
5 (裏)	4 (表)

- 1 舞鶴市堂奥地区現地調査成果報告会（2015.3.1）
- 2 雲門寺（舞鶴市余部上）
- 3 舞鶴幼稚園130周年記念展示（2014.11.1）
- 4 五老岳から望む冬の舞鶴湾（2015） 松岡秀雄氏撮影
- 5 山口神社（舞鶴市堂奥、2015） 新谷一幸氏撮影

京都府立大学文化遺産叢書（2008～）

- 1 南山城・宇治地域を中心とする歴史遺産・文化的景観の研究
- 2 近世伊予越智島地域における流動する人・物・情報  
—御用日記・諸願控の総合的研究—
- 3 八幡地域の古文書と石清水八幡宮の絵図—地域文化遺産の情報化—
- 4 八幡地域の古文書・石造物・景観—地域文化遺産の情報化—
- 5 丹後・宮津の街道と信仰
- 6 城陽市域の地域文化遺産—神社・街道の文化遺産と景観—
- 7 熊野の信仰と景観—宗教遺産学の試み—
- 8 石見銀山域の歴史と景観—世界遺産と地域遺産—
- 9 和束地域の歴史と文化遺産
- 10 石清水門前寺院・南山城地域の古文書—京都府歴史資料の調査—



京都府立大学文化遺産叢書 第11集  
舞鶴地域の文化遺産と活用

編集 東 昇  
発行 京都府立大学文学部歴史学科  
〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町1-5  
発行日 2016年3月30日  
印刷 株式会社 北斗プリント社  
〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町38-2